

京都
西陣

どんな素材でも織物にする

有限会社フクオカ機業

知恵の使いどころ

炭素繊維、アラミド繊維など、高性能繊維の高度精密製織技術[ハイ・ファブリックスの開発、製造技術]により、織物の三元組織(平織、朱子織、綾織)にて構成される耳付織物、必要性能の設計に応じた異種組織織物等を商品化。あらゆる素材の織物に挑戦している。



強み

西陣織の代表的なシャトル織機を独自に改良し、炭素繊維のような毛羽立ちやすい繊維でも横糸が連続する耳付織物として商品化。炭素繊維の強度が活かされ、端加工をしなくても解けない。また、ジャカード織機を用いることにより、炭素繊維や他の繊維とコラボさせ、意匠性のある特殊織物を開発することが可能となる。



耳付炭素繊維織物

プロフィール

- 明治35年 福岡金次郎商店を創業
- 大正15年 西陣で初めてスイスから織機を導入
- 第二次世界大戦中 政府軍事指定工場となり、焼夷弾のパラシュートを生産
- 昭和21年12月21日 西陣機業(株)設立
- 平成10年 炭素繊維、アラミド繊維を用いた特殊織物の技術開発開始
- 平成16年3月 京都市ベンチャー企業目利き委員会Aランク認定

実績・成果

炭素繊維水環境整備技術

三重県英虞湾、埼玉県旧芝川、神奈川県八景島、静岡県三ヶ日町他。炭素繊維を湖などに沈めると、炭素を好む細菌やバクテリアの働きで汚れを吸着。西陣織のようにきめの細かい織物にすると強く、炭素繊維の織物をいかだ等につるして、川底のヘドロや悪臭が減り浄化された。

サクセスプランニング共同開発商品 対刃防護生地「京都西陣yoroï」

カッター等の鋭利な刃物でも切れにくい耐刃防護生地を、最先端の繊維「超高強力ポリエチレン原糸」を使用して開発した。伝統的な製織技術を活用して出来上がった画期的な商品。



京都・知恵ビジネス・ワークショップ